



## 特別支援教育における専門性を育てる

### ～学んだ知識を授業に生かす～

平成15年3月28日に特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議から、「今後の特別支援教育の在り方」が答申がされ、特別支援教育にかかわる教師の専門性の必要性が述べられています。第5章「特別支援教育体制の専門性の強化」では、「校長、教頭をはじめとした教員一人一人の障害のある児童生徒の理解や指導上の専門性を高めること、組織として一体となった取組が可能となるような学校内での支援体制を構築する……」と記述をされています。

このような答申や県特別支援教育課の取組等を受け、県内の各学校でも教師の専門性の構築を特別支援教育推進の大きな柱として位置付け、校内研修や特別支援学校の公開講座、岡山県総合教育センターの研修講座等を活用しながら、先生方の特別支援教育に関する力量アップに奮闘をされてきたことと思います。また、岡山県教育委員会から出された岡山県特別支援教育推進プラン(H21年3月23日)でも、教員の専門性向上を取り上げ、特別支援学校教諭免許状保有率の向上、自立活動指導に関する専門性の向上、発達障害を含む様々な障害種に対応できる指導力の向上を具体的な方針として取り上げています。

これら様々な取組の中で、発達障害の児童生徒の理解、アセスメントの理解、授業づくり等、特別支援教育に関する知識は大幅にアップをしてきました。しかし、これらの多くの知識を身に付けた先生方から、「授業がなかなかうまくいかない」「授業で何をしていけばいいのか分からない」「どのように授業構成をしたらいいのか分からない」という相談を数多く受けてきました。このことから、知識を身に付けることが専門性の向上のためのゴールではなく、知識を授業に生かすための力を身に付けていくことこそが、最終のゴールではないのかという思いに立ちました。知識を身に付けることは、専門性向上の途中でしかなかったわけです。特別支援教育における専門性とは、知識をベースにして、児童生徒に「分かる」授業を行っていくことができるかどうかということです。知識が授業と関連したものではなくてはなりません。

正しい知識を身に付ける段階を第1ステージと考えるなら、知識をベースにして授業づくりへ生かす段階は第2ステージと考えることができます。知識と実践の間にあるハードルを乗り越えていくことが今後の課題であり、それに見合った研修が今後は必要になってくると考えています。先生方一人一人が授業に自信が持てると、子どもたちが必ず変わります。第2ステージに向けて総合教育センターでも、「授業」に視点を当てた研修講座も用意をしています。どうか、これらの研修講座を活用していただきながら、一緒に授業を考えていきませんか。

「知識の獲得から授業実践へ」

授業を中心において真摯な論議が専門性向上への第一歩です。

(特別支援教育部長 高橋章二)

# センターでの研修講座のご案内

平成 22 年度は、子どもたちの教育的ニーズに応じた支援の充実を目指して、分かる授業、障害特性の理解と支援、教育相談のスキルアップを目指した実践的な研修講座を開設します。

- ◆ **発達障害研修講座（6 /25, 7/30, 8 /2）**  
障害特性の理解に関する基礎的な内容（6 /25）、社会自立及び二次的な障害予防への支援に関する発展的な内容（7 /30, 8 /2）について研修します。
- ◆ **特別支援教育教育相談研修講座（7 /29, 8 /9）**  
講義・実践発表を通して、障害のある子どもの保護者及び本人への教育相談について研修します（7 /29）。また、演習を通してケース会議の進め方についても研修します（8 /9）。
- ◆ **特別支援教育授業づくり研修講座（8 /18, 8 /25）**  
通常学級における特別支援教育の観点からの授業づくり（8 /18）、特別支援学校及び特別支援学級における授業づくり（8 /25）について研修します。
- ◆ **特別支援教育スキルアップ研修講座（7 /7）**  
個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導である「自立活動」を取り上げ、講義・実践発表・演習を通して研修します。
- ◆ **アセスメント研修講座（8 /3, 8 /4）\* 宿泊による参加が原則**  
WISC-III, K-ABCの検査実施・読み取り、支援への生かし方について研修します（8 /3）。また、講義・演習を通して、アセスメントについて研修します（8 /4）。
- ◆ **重度・重複障害児の理解と支援研修講座（7 /26）**  
重度・重複障害児の理解と支援について、コミュニケーションの視点から研修します。また、個別の指導計画作成について、講義・演習を通して研修します

